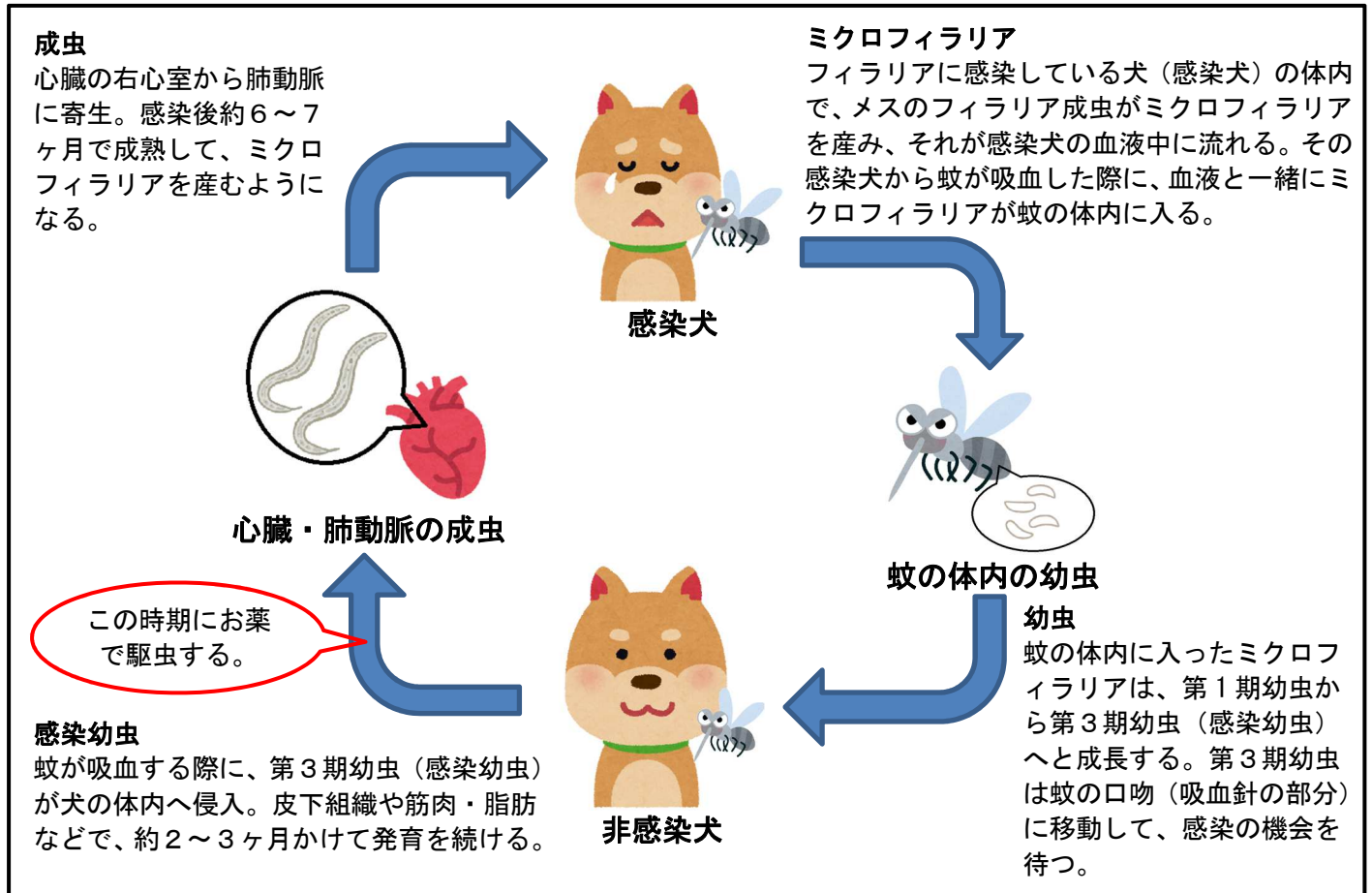


犬のフィラリア症について

○「フィラリア」とは？

犬糸状虫とも呼ばれ、蚊の媒介により犬の肺動脈や心臓に寄生し、全身の血液循環や内臓にも深刻な障害を与える寄生虫です。成虫は体長約 20~30 cmの細長く乳白色のそうめんの様な形をしています。フィラリアが成虫となるには、フィラリアを媒介する蚊の体内でマイクロフィラリアから感染力を持つ幼虫へ発育することが必要です。蚊が犬の血を吸う時に、フィラリアの幼虫が犬の体内に侵入し、約6~7ヶ月で幼虫から成虫に成長します。フィラリアが成虫となり、犬の肺動脈に寄生すると、深刻な症状を起こすようになります。



○フィラリアに感染している犬の症状

感染初期は無症状です。多くの場合、感染から数年経ってから、心臓や血管を傷つけ、肝臓や腎臓に影響を与えて深刻な症状が現れます。

【軽症】平常時は症状を示しませんが、時々軽い咳をするようになります。

【中等症】咳に加えて、栄養状態や毛艶も悪くなります。運動を好まなくなります。

【重症】腹水が溜まり、元気・食欲がなくなり、痩せてきます。呼吸困難や運動時の失神も見られるようになります。咳に多量の血が混ざることもあります。

また、乾いた咳以外の症状が無いまま突然発症し、不整脈や呼吸困難、重度の貧血、血尿を示し、数日の内に死亡する急性症状を現すことがあります。（大静脈症候群）

○フィラリア症の治療法

代表的な方法：フィラリア予防薬（幼虫を殺す薬）を毎月1回通年投与し、成虫の寿命（約5年）を待ちます。

※なお、完治した場合でも、すでに循環器系がダメージを受けている場合は修復が難しく、健康な犬と比べて、循環器系の病気の症状が出やすいと言えます。また、死んだ成虫が血管に詰まるリスクが残ります。

他にも成虫を殺す薬の投与や、手術によりフィラリア成虫を摘出する方法もありますが、どの方法を選択するかは犬の状態によります。

フィラリア症は予防が重要です!!